

卒業証書授与式 学校長式辞より「卒業生へのメッセージ」

卒業証書は、「中学校三年間と小学校の六年間合わせて九年間の義務教育全てを終了した」ということを意味しています。皆さんの今日までのたゆまぬ努力とともに、皆さんを励まし育ててくださったご家族の深い愛情、そして小中学校の先生方の教えや導き、地域の方々の様々な支援の結晶であることも、心にしっかりと刻んでほしいと思います。

卒業証書を手にした今、皆さんの心の中には様々な思い出が行き来していることでしょう。

私は、皆さんと一緒に生活した時間は一年間という短い期間でした。さらに今年は、コロナウイルス感染防止というこれまで経験のない、非常に制限された学校生活を強いることとなってしまいました。そんな中ではありますが、皆さんの印象的な姿が私の脳裏をいくつもよぎります。

一つは泉が丘祭。様々な制限の中ではありますが、生徒会役員三年生が一体となり、「ENJOY」をテーマに掲げ、今、自分たちに何ができるのかという視点で、全校に素晴らしい二日間を提案してくれました。音楽会最後の三学年合唱は、聴く者の心に響きました。

そして、もう一つの印象的なシーン。それは、当初四月京都・奈良で計画されていた修学旅行が十月に延期。しかし、コロナの状況から京都・奈良を断念し、諏訪方面への一泊旅行として訪れた蓼科での夜のひとコマです。当日は、台風が長野県に最接近という厳しい状況で、予定していた野外でのアクティビティーも中止。ややもすれば、不満を口にしたくなる、そんな状況でした。しかし、皆さんはこの旅行の一コマコマを楽しむ姿がありました。夕食後の学年ボランティアステージ。その人、そのグループなりのパフォーマンスを繰り広げてくれました。そして、その姿を皆が心から楽しむ素晴らしいひと時が夕食会場には繰り広げられました。ステージに立つ人と共に楽しむ一人一人の笑顔が大変印象的でした。私と一緒に皆さんの姿を見ていたホテルの支配人の方が一言「素晴らしい 子どもたちですね」と私に語りかけていただいた時、うれしさとともにこの笑顔をもつ皆さんならこれからの人生、どんな状況でもきっと前向きに進んでくれるだろうと確信しました。

さて 皆さん 数年前に こんな歌がよく聞かれたのを覚えていますか。

はじめよう やってみよう 誰でも最初は 初心者なんだから やったことないことも やってみよう 苦手な相手とも 話してみよう
知らなかったこと 見たことないもの あたらしい 楽しい

さらにこの曲は次のように続きます。

悲しいときは 笑って 寂しいときは 声出して 雨はいつまでも 続かない 土砂降りも楽しもう

これから皆さんの進む未来は、決して平坦な道ではありません。不透明な世の中です。そしてまさに今はコロナ禍。予測不可能な状況にあります。私たちを取り巻く価値観も常に変化し、多様化しています。これからの人生、時には厳しい向かい風に立ち向かっていかなければならないときもあるかもしれません。でも、その向かい風を自分の風車を回してくれるエネルギーとすることも大事になります。そんな力を皆さんは持っているとは私は信じています。（伊那市立伊那中学校長 有賀 稔）

* 学校長式辞の内容の一部を掲載